

New

Nogata

2024、6、24

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス・共育コラム



「主体性」を育むことの重要性

子どものなかには、自分で学び考え、とるべき行動を決める習慣をもたないために、いざ自分で何かしなければならなくなったとき、常に不安で、自分のすることに自信をもてず、とまどう姿を見せる子がいます。バスケットで言えば、どっちに攻めたらいいかわからないままコートに入っていたり、ボールを持ってもどうしていいかわからずじっとしていたり、と何かにつけて自分で確かめたり、決めたりする（決断する）ことができず、指示されるのを待っている子です。これでは、だれがバスケットをしているのかわかりません。よく「自分でバスケットしろ」と声をかけます。まちがったり、失敗したりすることがあっても、自分でやらなければ、いつまでたってもできるようになりませんから。「言われなければ…」「言われれば…」「言われたことしか…」などは、いずれも主体性を欠く動きの表現です。今は、失敗しても、うまくいなくても、とにかくやってみる、チャレンジしてみることが大事です。うまくいかなかったら次にまたやり直せばいいし、失敗したらまた練習すればいいですね。

子どもの成長にとって、そしてこれからの社会を生き抜くうえで、重要視されているのが「主体性」です。それは、簡単に言えば、「自分のことを自分で決めて行動する」ということです。日々の生活場面で、習慣として、この力（主体性）を育てておくことが大切です。ふだんから可能な限り、自分のことは自分で決めさせてあげること、やる気に満ちた子ども、チャレンジしてみようとする子どもが育ちます。結果として、うまくいかなかったことも、失敗したということもあるでしょうが、そのことを通して自分にしっかり向き合わせるのが大事です。自分での立ち上がりが難しそうなときは、そこをサポートし、次への意欲につないであげることが、私たち指導者、おとなの役割です。経験のない子たちが新たなことにチャレンジし、経験を重ねるといのは、かなりのハードルです。子どもの意欲をつぶさない、失敗を失敗で終わらせない、失敗を次への意欲にかえるおとなのかかわりが重要です。とまどいや失敗も一つのいい経験（学び）として、次に生かしていくことができるようサポートしていきましょう。

